

平成27年 第9回政策討論会要点記録

(第一分科会：文教民生グループ)

開催日時：平成28年3月25日(金)午後3時より

参加委員：井上源次座長・西田武史副座長・南加代子・松本妙子・
中井良介・井上孝三郎・井舎英生・澤田和代（欠席）

【今回の概要】

「担当部局の現状報告と今後の考えについての報告」を受けて討論を行う。

【委員意見】

- ・小中一貫教育についての学びは、テーマが大きく、大変に難しい課題であった。学びの事だけを考えると、連続したカリキュラムの中で学べるのではないかと思っていたが、校区編成や、統廃合の話も聞き、何度も議論をかわさないといけない事を実感。様々な関係機関との調整も必要だと知った。只、ひとつ言える事は、学ぶ権利のある子供達にとって、より向上が見込めるならば、教育に関しては、おしむ事ない力を発揮して改革してもらいたい。
- ・「岸和田市教育委員会では小中一貫教育についての議論はとりたて

て行っていない」との話を聞いて、教育委員会の教育への取組の程度を改めて確認できました。

① 岸和田の学力レベルは、全国ワースト 2 であり、学力アップに真剣に取り組む必要があるが、教育委員会にはその意識が低く危機感にも乏しい。残念。

② 教育改革に取り組まないと北摂都市や近隣都市への人口流出が止まらない。

③ 気が付いたら岸和田に子どもや若い人がいない状態になってしまふ。

④ 小中一貫教育は、学力アップに効果がなければ意味がない。これは私の考えです。

⑤ 小中連携や施設分離型一貫校でも良いので教育改革をして学力アップしたい。

⑥ 本市の将来のためには、是が非でも学力アップを達成しなければならない。

⑦ 教育の充実が、若い家族に魅力ある岸和田となって、その結果人口が増加する。

⑧ 東京江戸川区の西葛西は、教育環境が良いので、若い家族が増

えている。

⑨ 教育予算を増やして市費教員を採用して少人数学級を実施して学力アップしたい。

⑩ 岸和田復権の鍵は、「教育」であり「教育改革が待ったなし」である。

⑪ 天神山の幼少一貫教育と言っているが、後付けで一貫教育と言っているだけで、中身が伴わない。

⑫ 小学生が居なくなってしまうのは、校区どころの話ではないと思いますので、小中連携教育や一貫教育を含む教育改革を推進しなければなりません。

・担当部局の話を聞いて、考えを申し上げると、小中一貫に付いては、やはり取り立てて検討委員会として検討もしておらず、現在の時点での見解も無いと言う事が確認された、しかしながら小中一貫では無く、幼少一貫と言う観点では検討委員会が存在し、今後これを拡大して検討していきたいとの見解も確認出来たので少しでも前進してもらえる事を評価する。また、我々が一年をかけて討論し、出された意見と教育委員会の考えが共通する考えが多々あったので良かったと思う。又、校区の再編と言う問題も浮

上して来て、個人的には小中一貫をするしないに関わらず、検討すべき本市にとって大事な問題であると前々から感じていたので是非これも含めて検討を進めるべきである。

- ・小中一貫教育について、理事者からの説明よくわかりました。本市においては、他市とは環境も違うので、本市にあった取り組みをすべきである。小中一貫教育は、「中一ギャップ」対策にはいいが、「学力アップ」にはつながるとは言い難い。全国的に、小中一貫教育の先進事例を見ても、効果が出ているので、いい政策だと思う。本市にとって、良い方向性に向かうよう、もっと真剣に考えて何でも取り組むべきだ。
- ・学校教育部長からは、小中一貫教育についてメリットと課題を整理して考えをうかがった。教育委員会として議論や視察をされているようだが、慎重な対応を望みたい。

教育総務部長は、個人的見解だがと断って公共施設適正配置と関わっての幼少一貫や学校の校区再編などについて述べられた。

随分以前の事だが、文部省（当時）の官僚が、子どもが減る小規模校と大規模校の校区を変えてならせば、学校を建てなくても良いし、学級の子供の人数も減らせると言ったことを思いだした。

一見合理的なようだが、地域の実情や学校の成り立ちを考えない
意見だと思う。

【その他】

- ・次回、全体会議